

学位論文審査の結果及び最終試験の結果の要旨

学位申請者氏名	伊能 利之	
学位 論 文 名	専門医共通研修へ繋がる 臨床実習前医療コミュニケーション演習と学習評価 (Construction and Evaluation for Medical Communication Skills at Pre-educational Clinical Clerkship Course that Lead to Common Training for Specialists)	
論文審査委員	主査 :	松本歯科大学 教授 亀山 敦史 
	副査 :	松本歯科大学 教授 富田 美穂子 
	副査 :	松本歯科大学 准教授 荒 敏昭 
	副査 :	
	副査 :	
	副査 :	
最 終 試 験	実施年月日	2021 年 2 月 16 日
	試験方法	口答 • 筆答

学位論文の要旨

歯科医学教育モデル・コア・カリキュラムでは、コミュニケーション能力として患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者及びその家族との良好な信頼関係を築くことを求めている。本学では第4学年時に、診療参加型臨床実習を見据えた医療コミュニケーション演習を行っている。短時間の演習で実効性のある工夫として、歯科医師役と評価者役を数多く行うロールプレイ形式での演習と、OSCEを見据えたショットガン形式での演習を組み合わせて実施した。本論文では、この演習時に行った評価の分析を行うことで、本学の学生が演習で修得できた項目と修得しにくい項目を明確にした。また、座学の知識レベルと演習の成果との相関についても調査した。

2013年度から2017年度にかけて実施した医療コミュニケーション演習を欠席せず全て受講した374名のうち、海外からの留学生と留年生を除いた296名を本研究での調査対象とした。第1クールでは指導歯科医によるデモンストレーションとロールプレイ形式での医療面接演習を、第2・第3クールでは第1クールと同様のロールプレイ形式での演習を、第4クールでは急性症状および慢性症状の初診時医療面接について、OSCE形式での演習を実施した。なお学生は評価を受ける側、評価する側の両方を経験した。演習で行った評価はプロセス：9項目、15点、コンテンツ：7項目、14点とし、実施した5年間で得られた評価内容について、被評価者の実施課題数、学生と指導医による評価点数の比較および一致率、できなかつた評価項目の抽出、座学試験と演習評価について分析した。

第1クールでは学生による評価点数が指導歯科医に比べて有意に高かったが、第2・第3クールではその点数差が小さくなり、指導歯科医の採点との有意差を認めなかった。またプロセス、コンテンツ項目ともに演習を重ねるにしたがって評価の不一致が減少した。

演習を重ねることによって全ての項目で達成率が上昇することが明らかとなつたが、特に言葉遣い、言い忘れの確認、要約と再確認、現病歴の聴取についてはその効果が顕著であった。

本解析の結果から、演習初期では時間制限によって質問に至らず、修得できなかつた項目が多く、また医療推論を行うための病歴聴取や患者の解釈モデル、治療の希望聴取できていない学生が約1/3程度存在していたが、16項目全てで修得率が上昇し、特にプロセス項目における言葉遣い、言い忘れの確認、要約と再確認、コンテンツ項目における現病歴の聴取に

(様式第 13 号)

についての修得が顕著であった。また、コミュニケーションに必要な日本語の使用方法は演習を重ねることで効果的であることを明らかにしたが、演習期間中に全てを修得できる内容ではないため、臨床実習→臨床研修→専門医共通研修における連続性のある教育が不可欠であると考えられた。

学位論文審査結果の要旨

本研究では、医療コミュニケーション演習による教育効果を明らかにしたのみでなく、演習で評価したプロセス、コンテンツの計 16 項目のうち、修得が容易な項目と困難な項目を明らかにしており、学生のコミュニケーション能力向上のためのよりよい学修方法を考えるまでの根拠となりうる論文であり、得られた成果は今後の歯科医学教育に寄与するものと考えられ、本論文が博士（歯学）の学位授与に値すると判断した。

最終試験結果の要旨

学位論文の内容に関する質疑に加え、以下のような項目を中心に口頭による試験を行った。

1. 表 6-1 および表 6-2 における「演習時の評価」が意味する内容は何か
2. 演習で使用した評価シートにはどこまでチェック項目が記載されているのか
3. 復習試験の問題は全問「1つ選べ」だったのか（五者択一という表現は妥当か）
4. この論文における「ショットガン形式」とはどのような意味か
5. 文章中出てくる「全ての評価」の意味するところは何か
6. 参考文献 22 福本らの論文の内容と、本論文との傾向の違いについて
7. 「達成率」の定義について
7. 評価シートの形式としての check list と rating scale の違い

以上の質問に対して、文献的知識を踏まえて概ね妥当な回答が得られたことから、学位申請者は本学大学院博士課程修了者とほぼ同等の知識と学力を有していると判断し、最終試験を合格と判定した。

判 定 結 果

合格

・

不合格

備考

- 1 学位論文名が外国語で表示されている場合には、日本語訳を()をして記入すること。
- 2 学位論文名が日本語で表示されている場合には、英語訳を()をして記入すること。
- 3 論文審査委員名の前に、所属機関・職名を記入すること。